

「教育と公共」研究部会（第11回）

日時：2020年2月21日（金）10:00～12:00

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）上野正道研究員から、ガート・ビースタ氏をゲスト・スピーカーに招きたいという提案があった。同氏は2月28日来日予定で、3月11日に東大で、23日に上智大で講演予定。野間研では次の研究会予定日3月13日にどうか

（2）浅井幸子研究員の発表：「コモン・スクール」の再考

◆公教育としての保育

- ・日本においては幼児教育の公共性の制度的な脆弱さは明らか
- ・少子化の進展は、保育所をも市場競争に巻き込んでいくだろうとの予測

◆レッジョ・エミリア研究所から学ぶこと

- ・イタリアのレッジョ・エミリアの公立学校の幼児教育は、共感の広がりがあると同時に商品化もされてきた
- ・ピーター・モスはエミリアの教育主事・マラグッツィから知識人が媒介になって働く可能性を学んだ
- ・ストックホルム教育大学のダール・ベリがレッジョから学んだこと
- ・ストックホルム・プロジェクトの開始
- ・レッジョの実践記録『子どもたちの100の言葉』（2012年、日東書院）を紹介

（3）藤井佳代研究員から文献紹介：『公共性の構造転換』（ハーバーマス 未来社1962年、新版1990年）の前半箇所

◆初期ハーバーマスの公共圏理論における教育—公と私の変容からとらえる「市民的公共性」

- ・代表的具現の公共性
- ・代表的具現の公共性から文芸的公共性へ

・次回研究会は、3月13日（金）13:00～

・ゲストスピーカー、ガート・ビースタ氏のレクチャー。

ビースタ氏の都合が悪いときは、田嶋研究員の発表